

【解答】

問1 A=オ B=イ C=ウ D=ア /
問2 この意味で、AIは、知識そのものの源としてよりも、人々がどのように考えるかを学ぶのを助ける道具として重要になるかもしれない。 / 問3 AIが知識を与える存在より、思考を助ける道具になること。
 / 問4 もし教育技術が慎重に設計され、責任をもって利用されるならば、AIは教師の重要性を弱めるのではなく、人間の学習を強化する可能性がある。 / 問5 イ・エ

【本文全訳】

人工知能は、世界中の教育においてより大きな役割を果たし始めている。いくつかの学校では、AIシステムがすでに教材を推薦したり、生徒の成績を評価したり、さらには学習者がオンラインで尋ねた質問に答えたりするために使われている。この技術の支持者たちは、それが教育をより効率的で利用しやすいものにできると主張している。追加練習が必要な生徒は即座にフィードバックを受けることができ、一方で教師は、簡単な課題の採点のような繰り返し作業をコンピュータに任せることで時間を節約できる。さらに、AIシステムは大量の教育データを分析し、人間の教師が見落とすかもしれない傾向を発見することができる。これらの理由から、多くの人々はAIが学習を大きく改善する可能性を持っていると考えている。

しかし一方で、教室におけるAIの影響力の増大を懸念する人々もいる。一つの問題は、教育システムがしばしば生徒の過去の成績から集められたデータに依存していることである。もしそのようなデータに社会

的あるいは経済的偏りが含まれていれば、AIプログラムは意図せずそれらを再生産してしまう可能性がある。例えば、恵まれない環境の生徒は、実際の能力ではなく不平等な条件に基づくパターンをシステムが学習しているため、低い評価を受けるかもしれない。もう一つの懸念は、AIへの過度な依存が教師と生徒の関係を弱める可能性があることである。教育には、知識の伝達だけでなく、励ましや信頼、感情的理解も含まれている。どれほど技術が進歩しても、こうした人間的要素は容易には機械に置き換えられないと主張する批判者もいる。

こうした懸念にもかかわらず、研究者たちは現在、教師を置き換えるのではなく支援するAIシステムを開発する方法を模索している。有望な方法の一つは、AIを「学習パートナー」として利用することである。単に正解を与える代わりに、そのシステムは質問をしたり、ヒントを与えたり、生徒に問題についてより深く考えるよう促したりする。教育研究者の中には、この方法が学習者をより自立的で内省的にする助けになると考える人もいる。さらに、教師はAIによって集められた情報を利用して、生徒の長所や短所をより深く理解できるかもしれない。この意味で、AIは知識そのものの源としてよりも、人々がどのように考えるかを学ぶのを助ける道具として重要になるかもしれない。もし教育技術が慎重に設計され、責任をもって利用されるならば、AIは教師の重要性を弱めるのではなく、人間の学習を強化する可能性がある。したがって、社会にとっての課題は、教育にAIを使うべきかどうかではなく、人間的な学びを

保ちながらどのように利用するかなのである。

問1 A=オ significant

該当箇所: AI has the potential to improve learning in (A) ways. ここは in + 形容詞 + ways の形で、「～な形で」という意味になります。

significant ways で「重要な形で、大きく」という意味になり文脈に合います。

ordinary は意味が弱く、damaged は過去分詞形容詞ですが「損傷した方法」となり不自然、although は接続詞なので文法的に入れられません。

問1 B=イ data

該当箇所: educational systems often rely on (B) collected from students' past performance. rely on の後ろには名詞が必要です。さらに collected from students' past performance が後ろから修飾しているため、「過去の成績から集められた～」という意味になる名詞 data が適切です。ここでは 名詞+過去分詞 の後置修飾がポイントです。

問1 C=ウ biases

該当箇所: If such data contain social or economic (C), AI programs may unintentionally reproduce them. social or economic が並列で名詞を修飾しているため、空所には複数名詞が必要です。biases「偏り」が最も自然です。本文全体でも「公平性」がテーマになっています。

問1 D=ア teaching

該当箇所: AI could strengthen human learning rather than reduce the importance of (D). the importance of の後ろには名詞または動名詞が必要です。teaching は動名詞で「教えること」という意味になり、「教育・教師の役割」という本文内容と自然につながります。although は接続詞なので of の後ろには置けません。

問2 模範訳

この意味で、AI は、知識そのものの源としてよりも、人々がどのように考えるかを学ぶのを助ける道具として重要になるかもしれない。

文法・構文解説

文全体の骨格は AI may become less important as A than as B です。less A than B は「A というよりむしろ B」という比較構文です。as a source of knowledge itself は「知識そのものの源として」、as a tool ... は「道具として」。that helps people learn how to think は tool を修飾する関係代名詞節です。how to think は「どのように考えるか」という疑問詞+to 不定詞です。

採点基準(6点)

6点= less A than B の比較構文、「知識の源」対「思考を助ける道具」の対比、how to think を正確に反映。5点= 全体は正確だが一部不自然。4点= 「考える力を助ける道具」という核心は取れている。3点以下= 比較構文の崩れ、大意不明など。

問3 模範解答

AIが知識を与える存在より、思考を助ける道具になること。

文法・構文解説

問2の英文内容を本文全体から具体化する問題です。本文ではAIを

knowledge itselfのsourceとしてではなく、learn how to thinkを助けるtoolとして位置づけています。したがって、「知識提供」より「思考支援」が核心です。

採点基準(4点)

4点＝「知識を与える存在」より「考える力を助ける道具」という対比がある。3点＝思考支援の内容はあるが対比が弱い。2点＝AIが学習を助ける程度。1点＝AIが重要になるのみ。0点＝誤読。

問4 模範訳

もし教育技術が慎重に設計され、責任をもって利用されるならば、AIは教師の重要性を弱めるのではなく、人間の学習を強化する可能性がある。

文法・構文解説

骨格はIf S is designed carefully and used responsibly, S may strengthen A rather than reduce Bです。If節は受動態で、「慎重に設計され、責任をもって利用されるならば」。rather thanは「～ではなくむしろ」。strengthen human learningとreduce the importance of teachersが対比されています。

採点基準(8点)

8点＝If節、受動態、rather thanの対比、strengthen human learning / reduce the importance of teachersを正確に反映。6～7点＝大

意は正確で軽い不自然さのみ。4～5点＝対比は取れているが細部不足。3点以下＝rather thanの処理不足、受動態誤読など。

問5 イ

Some people believe that AI can reduce teachers' workload by handling repetitive educational tasks. これは第1段落のgrading simple exercisesに対応します。handling repetitive tasksは「繰り返し作業を処理すること」の言い換えです。

問5 エ

Some researchers are attempting to develop AI systems that encourage students to think independently. これは第3段落のlearning partnerの説明と一致します。encourage students to think independentlyはencourage students to think more deeplyやindependent and reflectiveの言い換えです。

問5 誤答選択肢チェック

(ア)は本文内容に近いですが、「AI systems may give lower evaluations」が一般化されています。本文は特定条件下での可能性を述べています。(ウ)はreplace teachersが本文と逆です。本文はsupport teachers rather than replace themと述べています。(オ)はwhether schools should introduce AIがずれており、本

2026 年度対応 神戸大学予想問題

文は「導入するかどうか」ではなく「どう使うか」が課題だと述べています。

全体講評

今回のテーマは「AI と教育」です。神戸大らしく、「技術の利点」と「人間的価値」の対立を軸にした説明文になっています。問 2 では less A than B の比較構文、問 4 では rather than の対比構文、問 3 では抽象表現の具体化が重要です。全体として、難語よりも 構文・論理・言い換え を正確に処理できるかが得点の鍵になります。